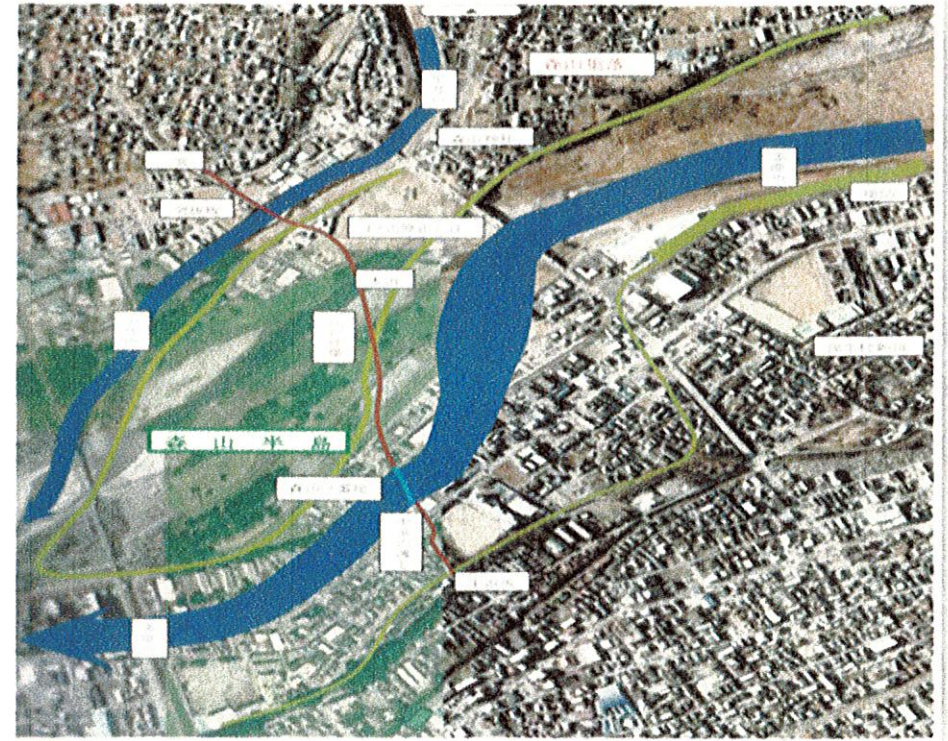


市民解説員が案内する市内探訪

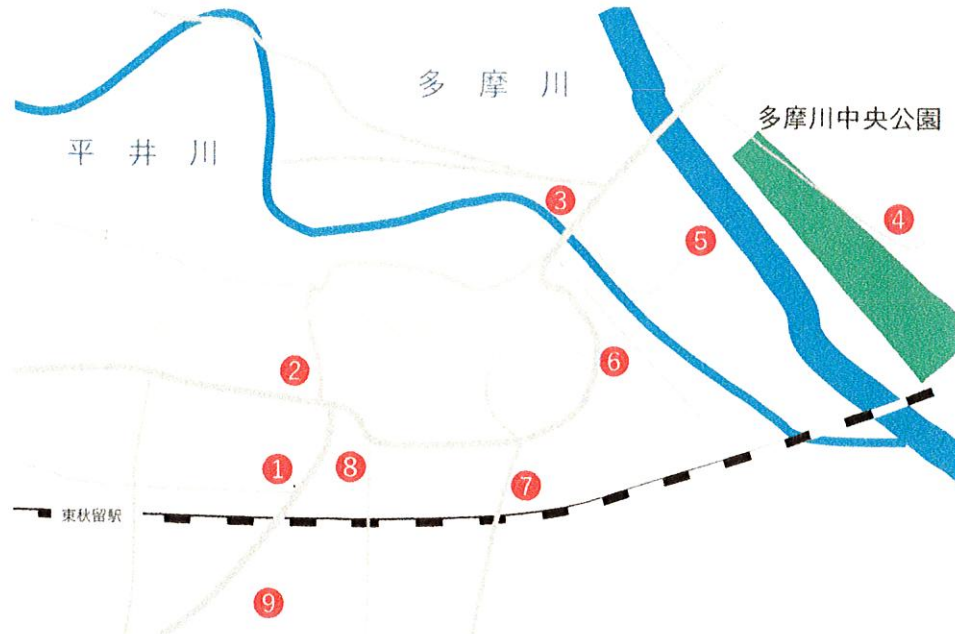
"森山半島"と東秋留の史跡をめぐる

項外図-3 文政期(1818年～1829年)



【担当解説員】 内田廉平・戸田正法・浅葉三男

令和5年11月 あきる野市中央公民館



⑤東秋留駅～①二宮神社～②玉泉寺～③森山神社～④石浜渡津跡碑～⑤ 森山渡船場跡～⑥郷倉辻～⑦昭和橋～⑧井上才市表徳碑～⑨新開院薬師堂～
⑥東秋留駅

私たち市民解説員は、ふるさとあきる野を愛し、
地域の自然・歴史・文化の再発見に努めるとともに、
これらを市民の皆さまや市外から訪れる方々に紹介し、
まちづくりと生涯学習の推進を図る学習ボランティアです。
あきる野市は、自然や遺跡、文化財の宝庫です。
美しく恵まれた環境のもとで、地域の皆さまと一緒に
学びあい、活動できることを嬉しく思っています。
今後ともよろしくお願いいたします。

① 二宮神社

- ✓ 二宮神社の創建年代は不詳ながら、その昔には小川大明神あるいは二宮大明神と称された古社である。二宮神社とその周辺は、大正15年5月に、「二宮神社並びに城跡」として東京都から旧跡に指定。「城跡」とは大石氏がその居館とした二宮城のことで、所在地については、児玉郡内説と多摩郡内説とがある。

② 玉泉寺

- ✓ 鷲峰山(じゅほうざん) 天台宗 「高月村圓通寺の末、開山開基詳ならず」(風土記稿)。本尊は阿弥陀如来。・元禄年間から300年余り、「お十夜の寺」として賑わい、この地域の念仏信仰の中心だった。
1/28 せんいっし
- ✓ 寺紋は丸に立葵…信州善光寺と類似していて、善光寺の記録によると、同寺の別院の役割を果たしていた時期もあった。
- ✓ 本堂には成田山から遷座されたという不動明王坐像も祀られている。毎月28日、不動尊護摩供(養)。護摩木に願いを書いて焚いてもらう

③ 森山神社

- ✓ 創立年代は不詳。国底立命、伊邪那岐命を祀る。明治2(1869)年、草花の十二天が草花神社と改称、折立、高瀬、西ヶ谷戸、森山の集落の鎮守が合祀された。大正初期に折立、高瀬、森山が再び分離し元の場所に祀られた。
- ✓ 森山神社新築記念碑…平成9(1997)年、社殿、神楽殿、神輿小屋を建設。水神宮…明治21(1888)年、渡し船が水難事故に遭わないこと

を願って「水神宮」を建立。

④ 石浜渡津跡碑

- ✓ 観応の擾乱(1350~52)が終わると南朝方が幕府に対して戦いを挑んできた。新田義宗・義興(義貞の子)らが鎌倉へと侵攻した。尊氏は人見原(府中市)・金井原(小金井市)で新田勢と対戦した。この時尊氏は苦戦を強いられ石浜に逃れた。
- ✓ 「石浜」の所在地は、①斎藤鶴磯が『太平記』の記述を根拠に唱えた多摩郡牛浜説、②菊池山哉・杉本博などが唱えた豊島郡千束郷(台東・中央両区境)説がある

⑤ 森山の渡船場跡

- ✓ 承応年間(1652~55)、森山半島の先端と熊川村の牛浜坂下との間に開設された。熊川村が管理し「牛浜の渡し」と呼ばれた。
- ✓ 明治23(1890)年、熊川村は渡船の権利義務を下草花村に移譲。「牛浜の渡し」から「森山の渡し」へと渡船の呼び名が変わった。
- ✓ 大正13(1924)年、多西橋、多摩橋が誕生。大正14年、五日市鉄道が開通。森山の渡しは利用者が激減し廃止となった。

⑥ 郷倉辻

- ✓ 古来から交通の要衝で、南は「とね山」の道が小川へと続き、旧五日市街道は崖下へ下り、平井川は黒橋という板橋を渡り、多摩川は船で渡って江戸との往来がなされていた。
- ✓ 郷倉とは、江戸時代農村に設置された公的な穀倉のこと。本来は年貢米の一時的な収納倉であ

ったが、後に荒備用の貯穀倉に転用された。ここの北西の角には、令和5年の初めまで郷倉の名残と思われる膳碗倉があった。

⑦ 昭和橋

- ✓ 五日市線の切通しの上に架かる都道166号線の陸橋である。昭和12年に架けられたことから、この名が付けられた。
- ✓ 五日市線の切通しから出た土砂を、井上才市が五日市鉄道から譲り受け、二宮神社前の湿地を埋め立てたという話が伝えられている。

⑧ 井上才市表徳碑

- ✓ 文久2年(1862)、多摩郡二宮村に生まれ。明治15年21歳で戸吹村の天然理心流松崎和多五郎道場に入門し、明治42年指南免許を得て、秋川流域の青年に剣道を教えた。
- ✓ 天然理心流は、八王子千人同心が居住する農村の郷土や豪農の子弟を中心に発展したが、明治後期から昭和初期、秋川流域においては、井上才市が同流派を隆盛にしたといっても過言ではない。昭和10年逝去。73歳。

⑨ 新開院薬師堂

- ✓ 堂の軒下に穴の開いた小さな石が一つ吊るしてある。薬師様に眼病が治るように、と願って奉納したものと言われている。
- ✓ 本尊の薬師如来とその脇士日光・月光両菩薩と十二神将はもと鎌倉の鶴岡八幡宮にあったのを、明治初年、神仏分離の際、いったん寿福寺へ遷座され、明治の中頃、さらにこの地へ遷座されたものである。